

毎年三回の休みを利用して四国霊場八十八箇所巡りに出かける。今年五月のGWで三十五回目、ほぼ六周目を終えた。九月の連休には七周目の巡礼に入る。一日に二十^キを超える距離を歩くと、体が健康になるだけでなく心が前向きになるという。

非破壊検査を手がける同社は「見えないものをみる」がテーマだが、歩き続けることで、まさに見えないものを感じられるようになるそうだ。「直感が働く」とアイディアも次々に湧いてくる」から、高見さんのメモ帳にはぎっしりメモが書き込まれている。ゴルフ練習機や浴場清掃機、果実もぎ取り機など会社の業務につながるものから趣味、遊びに関するものまで幅広い。企業や個人が新商品や新しいビジネスを生み出すきっかけ作りのために十一年前に立ち上げた異業種交流の会「文殊の会」では、自身も含めメンバー達が温めるアイディアの数々を、実現して広く社会に還元することを目指している。メンバーは



二十六人。毎月集まって、提案されたアイディアに対して、業種も年齢も異なる様々な立場から問題点や意見を促し、議論を掘り下げている。

「企業のトップの仕事は未来を見据えること」として、常に時代の変化を読みながら経営の舵をとってきた。この六月一日から社名を変更し、三人の技術士を迎えて、大型建造物の調査・改修コンサルタントという新規事業を手がけたのも、建設業界の仕事が保全・管理の時代に突入したことに対応したものだ。業態は変化しても「社員が喜んで働く環境をつくり、社会に貢献するのが会社の使命」という理念はゆるがない。

会社の経営を海に浮かんだ椰子の実にみたてて「嵐が来たら沈むこともあるが、波がおさまれば再び浮かぶ。巡礼でも仕事でも、山あり谷ありだが、目の前のことにこだわらず、最終的にプラスにはたらくようにすればいい」と言うのも、霊場巡りで常に直感力を養い、長期的に物事を俯瞰できる目を養っているからこそそうようだ。

だんわしつ

(株)アイベック (旧富山検査) 会長
高見貞徳氏